



みんなまで成功させよう 栃の葉国体

秋季大会開催まであと二百二十五日

第三十五回国民体育大会秋季大会は、県内十九市町で三十五の正式競技が開催されます。その開催が、いよいよ二百二十五日後にせまりました。

日光市で開催する競技は「剣道」と「山岳」の二種目です。その競技に参加するために、全国から約千四百人の選手団が秋の日光に集まります。私たち市民は、これら選手団を心から歓迎することで、国体を成功させたいものです。今月は「山岳競技」について、ご紹介します。

山岳競技

今回から

正式競技の仲間入り

山岳競技は、十月十二日から十七日までの六日間、紅葉最盛期の日光山系で行われます。

開始式は、総合会館で十二日の午後五時三十分からの予定です。表彰式は、十七日の午前九時から総合会館で行われます。

参加選手は全部で三百六十八人、約二百人の役員と合わせると五百

六十八人の選手団になります。競技は十三日から十六日までの四日間、日光山系で展開します。

コースは次のとおりです。
▼A1(縦走) 行者堂―一九一七 M―唐沢小屋―女峰山―帝釈山―富士見峠―光徳
▼A2(縦走) 光徳―三岳―湯元―中曾根―奥白根山―前白根山―

湯元
▼A3(縦走) 中宮祠―半月峠―社山―黒松岳―千手が浜
▼A4(縦走) 千手が浜―黒松岳―社山―半月峠―中宮祠
▼A5(縦走) 千手が浜―湯元―前白根山―奥白根山―五色山―湯元
▼A6(縦走) 湯元―五色山―奥白根山―前白根山―湯元―千手が浜
▼A7(縦走) 湯元―三岳―山王帽子岳―太郎山―光徳
▼A8(縦走) 光徳―太郎山―山王帽子岳―三岳―湯元
▼B1(踏査) 女峰山山麗会場Ⅰ
▼B2(踏査) 女峰山山麗会場Ⅱ

▼B3(踏査) 鳴虫山会場
▼C(登攀) 赤岩滝周辺
山岳競技に参加する成年男子は、四十六都道府県。成年女子、少年男子、少年女子が山岳競技に参加するためには、種別ごとのブロック大会で代表チームに選ばれなければなりません。関東ブロックを例にとれば、茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の七都府県で成年女子、少年男子、少年女子の大会を開き、各種別の上位二チームが参加することになります。栃木県は開催県のため、四種別全部に参加できます。

宮崎国体から

「山岳国体旗」引き継ぐ

昨年、宮崎国体を使用した「山岳競技」の国体旗引き継ぎ式が、二月八日、市役所で行われました。引き継ぎ式には、日光から星野市長をはじめ齋藤助役、齋藤副議長が出席。宮崎県からは西米良村長をはじめ五ヶ瀬町、椎葉村の関係者七人が出席。両市村長のあいさつのあと、ふるさと国体開催時の苦労話しが交歓されました。代表者の話によると、関係した

三町村では、婦人会から小中学生まで、住民のすべてが、期間中は選手達のお世話役にまわり、宿泊から食事まで、住民をあげて心のこもった接待をしたため、選手団からは、たいへん感謝され、大会を成功させる一番の力になった、とのことでした。

引き継がれた国体旗は、宮崎県西米良村、五ヶ瀬町、椎葉村の一町二村で開催した「山岳競技」に使用した旗で、全部で二十四枚。旗は三種あり、縦一・二五、横二の大型旗が四枚。縦〇・八、横一・二の中型旗が一枚。縦〇・二七、横〇・三七の小旗が十九枚。

大型旗の一枚には、剣道競技旗と同じく「栃の葉国体のご成功をお祈りいたします―西米良村長」と、墨書きされています。国体旗のほかに引き継がれたものは、山岳競技関係書類一式と全日本山岳協会旗一枚。この山岳協会旗は、総合会館で十月十二日に開く、開始式の時掲揚することになっています。

①競技得点合計の一位に十二点、二位九点、三位八点、以下八位三点、ただし同点の場合は、その順位を共有し次の順位を欠位とし、得点は次の順位の得点を加え等分します。
②各種別の一位に種別優勝得点一・五。ただし一位が二以上の場合は、一・五点を等分します。
③大会参加の都道府県には参加得点一点が与えられます。



国体旗をかかげる関係者